

島根県水難救済会 出雲救難所 創設110周年記念行事について

平成29年2月10日（金）出雲市において、島根県水難救済会、出雲市及び出雲救難所の合同主催の下、出雲救難所及び傘下の7救難支所の救助員をはじめ来賓として向田公益社団法人日本水難救済会理事長、藤原島根県副知事、樺澤第八管区海上保安本部警備救難部次長、柳田境海上保安部長、地元の出雲市から伊藤副市長、長廻(カ)市議会議長、板倉同副議長、鬼村出雲警察署長ら関係者多数が参列し、「島根県水難救済会出雲救難所創設110周年記念式典」が盛大に挙行されました。



藤江出雲救難所長の謝辞

島根県では、島根県水難救済会の事務局を公益財団法人島根県消防協会が兼務する等、県当局が前面に立って同県沿岸海域における水難救済活動を“海の消防団”と位置付けて支えています。県内でも特に出雲市は、出雲救難所の事務局を出雲市消防本部が引き受けると同時に、救難所長を消防長が兼務する等、市と消防本部が消防団の活動のみならず、地元沿岸海域における水難救済活動についても全面的に支援しており、全国的にも国の海上保安庁と地方自治体の消防による理想的な運営支援体制が確立されております。

出雲救難所及び支所概略位置図



今回 110 周年を迎えた出雲救難所は、1906(明治39)年4月に日御碕救難所として発足しましたが、市町村合併等に伴う救難所及び同支所の統廃合を経て、現在の松江市と接する佐香支所から大田市と接する多岐支所までの7つの救難支所が島根半島西部の出雲市全域をカバーし、水難救済活動に活躍しています。

柳田境海上保安部長の話によれば、「約 150km も離れた境と浜田の両海上保安部の間の海上保安体制の空白域を出雲救難所がしっかりと補完してくれており、出雲市管内の救難件数の 7 割を同救難所が出勤している。」として高く評価されています。

式典では、こうした出雲救難所の長年にわたる地道な水難救済活動に対し、向田理事長から日本水難救済会会長表彰状が、また樺澤警備救難部次長から八管本部長感謝状がそれぞれ伝達されました。



(公社)日本水難救済会向田理事長から事業功労として
会長表彰を贈呈される藤江出雲救難所長



第八管区海上保安本部樺澤警備救難部次長から感謝状が
贈呈される出雲救難所日御碕支所九矢支所長

式典に引き続いて、向田理事長による『“戦後”から脱け出せない日本の海上保安体制と国防体制』と題して記念講演が行われるとともに、講演会后、参加者による祝賀会が催され、藤江救難所長（出雲市消防本部消防長）による謝辞と最後に柳田部長の音頭で今後の出雲救難所の益々の発展と活躍を祈念して万歳三唱を行い、盛会裏に記念行事を終えました。